

1 自己評価

I 評価結果

- | | | | |
|-------------------|-----|--------------------|-----|
| 1 高質な学力の養成 | 【A】 | 4 安全・安心な教育環境づくりの推進 | 【B】 |
| 2 夢の実現を支える進路指導の充実 | 【A】 | 5 開かれた学校づくりの推進 | 【A】 |
| 3 豊かな心と健やかな体の育成 | 【B】 | | |

A: 当初の見込みを超える取組を行うことができ、目標を上回る達成状況である。 B: 当初の見込みとおりの取組を行うことができ、ほぼ目標とおりの達成状況である。

II 分析・改善方策

1 高質な学力の養成

- (1) 学力向上の研究と実践（主体的に学び、考えを深める資質を伸長・新学習指導要領及び大学入試改革への対応）
- ・学校全体として、授業改善のためのR-PDCAサイクルが回るようになっている。今年度は、研究テーマを設定をし、そのテーマに基づいた研究授業を各教科で実施することができた。
 - ・学校自己評価アンケート（以下、「アンケート」という。）「教員相互の研修」では肯定的回答が教員73%で、過年度と比較しても高い数値を維持している。「講義形式だけでない授業の実施」では、教員88%、生徒95%と高い評価となった。

・高い評価は、H28年度から授業研究が本格化した結果であるが、今後も、授業改善に向けての教員間での認識を高めることや、研修成果について考えるような時間を設ける工夫が必要である。

(2) 探究活動の推進（総合的な探究の時間の充実・図書館利用の促進・各種コンテストへの挑戦）

- ・アンケート「探究的な学びや発表の場の充実」の肯定的回答が生徒90%、教員73%とギャップが見られた。新学習指導要領実施に向け、探究学習についての教員の意識を変えていく必要がある。
- ・担当分掌に司書を加え、学習指導研究室と図書課、図書館が横断的に連携し、習得させたいスキルと図書館の支援とを関連付けた。図書館利用で育てたい力を整理し、シラバスを作成した。
- ・国際科学コンテスト等の参加者が増加した。今後は、入賞に向け指導体制を整えることが必要である。

2 夢の実現を支える進路指導の充実

(1) 高い志の育成（第一志望を貫かせる進路指導・開かれた国際交流）

- ・各学年が、進学情報だけでなく、学びの意欲を喚起する記事を記載した通信を年間40号程度発刊した。
- ・アンケート「進路を考える機会」の肯定的回答が生徒93%・教員88%・保護者87%。生徒の満足度は高い。
- ・学習面における生徒の悩みや具体的な進路志望を把握し、学年や学校全体で生徒を支援した。丁寧な指導を継続し、難関大、地元岡山大学への進学等、目標達成のレベルとなった。
- ・新規のアメリカ研修をはじめ、国際的な幅広い学びの機会を提供し、学校外での取組が増えた。

(2) 個に応じたキャリアカウンセリングの充実

- ・教員研修で手法習得と意識改革を行ったことで、生徒の思いを汲む指導が定着しつつある。
- ・個に応じた指導を充実させるために、生徒の変化に細やかに対応できる仕組みを検討する必要がある。

3 豊かな心と健やかな体の育成

(1) 教育相談活動の充実（教育相談体制の確立）

- ・SC、SSWとの連携により相談活動の充実を図り、積極的に生徒の相談に応じることができた。
- ・アンケート「教育相談の充実」の肯定的回答が教員81%、生徒83%。ともに高い評価を得ている。

(2) 人間関係構築力の育成（挨拶の推進・部活動の活性化）

- ・登校時の挨拶運動を生徒が自主的に行うことで、自然に挨拶が広がっている。
- ・入部率も高水準にあり、2つの部が全国大会出場、8つの部が中国大会出場した。
- ・「活動方針」に基づいた活動を行ったが、生徒と向き合う時間や指導時間の確保が課題である。

4 安全・安心な教育環境づくりの推進

(1) 人権意識の高揚（いじめ防止対策の実践）

- ・人間関係を構築するための講演会やLHRでの活動や指導が、人権意識の高揚につながっている。

(2) 安全な学校生活のための環境整備（交通安全の徹底・安全・安心な学校生活を送るための啓発活動）

- ・交通事故件数は昨年より減少したが、今後も機会をとらえて指導を継続させる。

5 開かれた学校づくりの推進

(1) 地域の力を活用した教育活動の展開（地域人材の活用・地域と連携したボランティア活動）

- ・部活動等の少人数単位での地域交流を行った。地域のボランティア活動へ延べ221名が参加した。

(2) 学校の魅力や情報の効果的な発信（学校HP・メール配信システムの活用・学校案内の充実）

- ・HPアクセスは県内トップクラスである。更新の頻度も高い。
- ・アンケート「保護者への情報提供」の肯定的回答が教員100%、保護者92%。経年変化でも年々高まっている。
- ・オープンスクールでは生徒・保護者計1737名が参加し、本校の魅力を伝えることができた。

2 学校関係者評価委員名

森川政典（大原美術館副館長）	江口孝美（ライフパーク倉敷 倉敷市民学習センター）
藤井 瞳（川崎医療福祉大学助教）	岡田展弘（同窓会長） 横山美加（PTA会長）

3 学校関係者評価

学校自己評価の結果などから学校の取組が具体的な成果に繋がっていることが伺える。勉強だけでなく総合的に力をつけている。わかりやすい授業、ICTの活用に加え、教員が楽しそうに授業をしていることが、生徒の興味喚起につながっている。探究活動の推進についても、分掌に学校司書を加え指導計画を作成するなど、成果が期待できる。学校の魅力や情報もホームページ等で効果的に発信されている。国際交流は充実したが、新規の海外研修の成果をどう評価するのか検討が必要。学校経営目標は実効性のあるものとなっているかが重要。今後は、各取組の成果を検証し、取捨選択と重点化が必要である。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- 高質な学力を伸ばす
 - ・知識・技能の定着と学ぶ意欲を涵養する授業づくり
 - ・総合的な探究の時間を軸とした、3年間を見通した探究活動の確立
- 生徒の主体的な活動など、様々な挑戦を応援する
 - ・資格やコンテスト、国際交流等への挑戦
 - ・生徒が主体となって企画・運営する行事
- 道徳心の涵養と社会人としての心構えをつくり、青陵高校生としての品格を磨く